allcinema

魔術師（1958）

ANSIKTET
THE FACE
THE MAGICIAN

メディア 映画
ジャンル ドラマ　コメディ　ファンタジー
製作国 スウェーデン
色彩 B&W
時間 99分
初公開日 1975/07/05
公開情報 ＩＰ

【解説】

シェークスピア的な、幻想劇の暗黒面と猥雑な喜劇性を併せ持った初期ベルイマンの完結点とも呼べる傑作。この後、「処女の泉」や“神の沈黙”三部作等、彼の作品系譜は、より沈痛な懐疑的傾向が強まり、そして後期のテレビ映画の生々しさを経て、自伝作品で壮麗に閉じられるのだが、この頃の作品の神秘性、語りの面白さは、彼の映画作家としての絶頂を示すものだと思う。原野を往く旅の魔術師フォーグラー（シドー）一座の馬車は、病に倒れ死にかけるアル中の元役者スピーゲルを拾う。彼は肉体の無意味さを呪い、結局、車内で息絶えてしまい、その死体の処理に困った一行は、申告しないまま目的の町に入り、領事の邸に招待される。そこで領事や警察署長、医師のベルゲルスらは彼らのインチキ超能力を嘲り、翌朝１０時に自分たちの前で、街頭で繰り広げるのと同じような出し物を披露せよ、と通達し、その晩は彼らを召使いと共に食事を取らせ屋敷に泊める。一座の薬売りの老婆は“２００歳”を自称し、彼らの到来を不安がる女中サンナに怪しい子守唄を聴かせ、助手の青年は女中サラとねんごろになる。司会役のデュバルは女中頭のソフィアにイカサマを見抜かれたが、彼女はそのことを他言せず、彼を自室に誘う。酒を呑む領事の御者アントンソンたちは突如蘇ったスピーゲル（幽霊）に出会い脅える。が、彼はフォーグラーの腕の中、永遠の眠りについた。翌朝のショウで署長に空中浮遊術のトリックを暴かれたフォーグラーだったが、“見えない鎖”の呪縛をかけられ逆上したアントンソンに殺されたと見せて、昨晩、男装で人目を避ける妻の正体を見破って言い寄ったベルゲルスを、屋根裏部屋での司法解剖の後、幽霊に化けて脅かす。その恐怖演出の巧みさやラストのどんでん返しなど、Ｏ・ウェルズを想わす映像の魔術がそれこそ堪能できるだろう。

【クレジット】

監督	イングマール・ベルイマン	Ingmar Bergman
脚本	イングマール・ベルイマン	Ingmar Bergman
撮影	グンナール・フィッシェル	Gunnar Fischer
音楽	エリック・ノードグレーン	Eric Nordgren
出演	マックス・フォン・シドー	Max Von Sydow
	イングリッド・チューリン	Ingrid Thulin
	ナイマ・ウィフストランド	Naima Wifstrand
	ビビ・アンデション	Bibi Andersson
	グンナール・ビョルンストランド	Gunnar Bjornstrand
	ビルギッタ・ペテルスン	Brigitta Pettersson

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.